



神奈川県

KANAGAWA

OOKAGAWA

# 大岡川

大岡川河川再生計画のあらまし

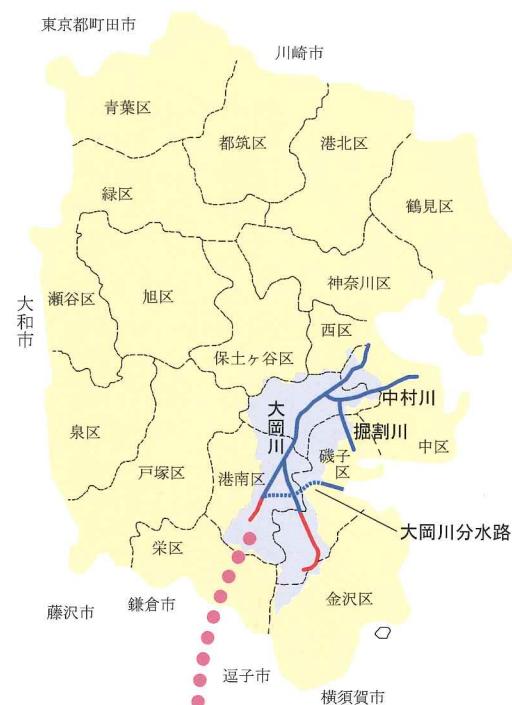


きれいになりつつある  
大岡川の水を  
活かすために

# 横浜の都心部を流れる川

## ◎大岡川の位置

- 大岡川水系は、市内でも最も豊富な自然が残されている鎌倉市にまたがる円海山・北鎌倉近郊緑地保全区域内の磯子区氷取沢に源を発し、途中日野川と合流し、南区・中区と市の中心部を流れ、東京湾に注ぐ流域面積35.6平方キロ、総延長28kmの横浜市を代表する河川です。
  - そのうち、神奈川県が管理する二級河川区間は22.7kmであり、磯子区天谷橋及び港南区日野橋より上流は準用河川（市管理）となっています。
- 現在、流域内の市街化面積は93%を占め、人口は約44万人を数えています。



## ◎横浜都心部を流れる川

- 大岡川の河口部は関内・関外地区と呼ばれており、その中には神奈川県庁や横浜市役所などをはじめとする行政機関や、オフィスビルなどが多数立地しています。
  - 関内関外地区は、多くの人々が居住する場所でもあります。近年は集合住宅の立地も多くなっています。
  - また、地区内や隣接地区は、みなとみらい21地区、赤レンガ倉庫、山下公園、中華街、元町、山手などの観光地としても知られています。
- 大岡川では、大岡川桜祭りや、カヌーフェスティバルなどのイベントも行われています。
- このように、大岡川河口部は、オフィス街・居住地・観光地など実に多様な特徴を持つ、横浜の都心部となっています。



■ 大岡川水系流域  
■ 二級河川区間  
■ 準用河川区間

# 大岡川河川再生計画とは？

## ◎大岡川河川再生計画の計画づくり

大岡川の河川再生計画は、河川とまちが一体となった計画づくりを目指しています。このため、計画づくりにあたっては、沿川地域と連携を十分に取りながら進められました。

現在、大岡川の水はきれいになりつつあり、様々なお祭りやイベントが開催されています。また、水に親しめる憩いの場や、災害時の拠点等の整備も進められています。

### 大岡川河川再生計画の基本理念

きれいになりつつある水質を活かし  
沿川地域と一体的に行なう  
地域の歴史・文化・生活と密接に結び付いた  
大岡川の環境の整備と管理

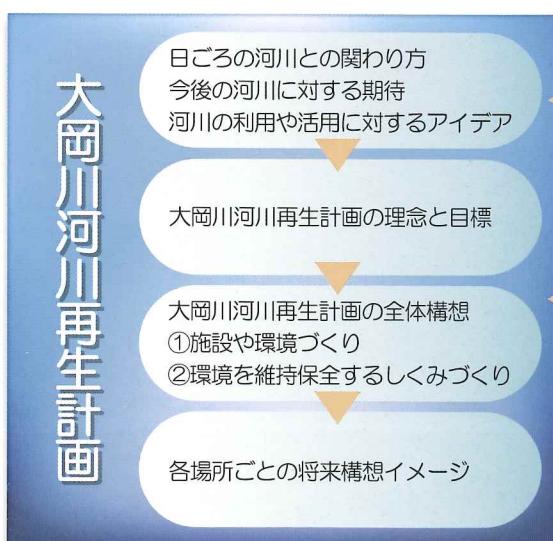
### 大岡川河川再生計画の5つの目標

- 横浜都心を流れるきれいな水を守りたい。
- 演芸・祭事・歴史など大岡川にまつわる横浜の下町文化を大切にしたい。
- 横浜都心の貴重なオープンスペースとして子どもの遊び場・地域の憩いの場に大岡川を使いたい。
- 都心プロムナードやショッピングモールとつながる水辺の遊歩道を歩きたい。
- 市民生活をまもるために大岡川の安全を確保し防災機能としても大岡川を使いたい。



▲地域の皆さんとの意見交換会（グループインタビュー）

▲ワークショップ



市民参加

検討委員会  
市民  
学識経験者  
行政

# 大岡川河川再生計画の範囲

## ◎河川再生計画の範囲

・大岡川河川再生計画は、おおむね右図の範囲を対象としています。(凡例参照)

大岡川は、図下の蒔田公園で、中村川と分流しており、この分流点より下流の部分で計画づくりを行いました。

・計画対象の河川延長は、約 6.7 kmで、大岡川が約 2.8 km、支流の中村川・堀川が約 3.9 kmとなっています。

・都心部という高密度に建築物が集まっている場所であることから、沿川の地域とも連携をとる必要があります。

### 凡例

#### ○ 大岡川河川再生計画 計画範囲

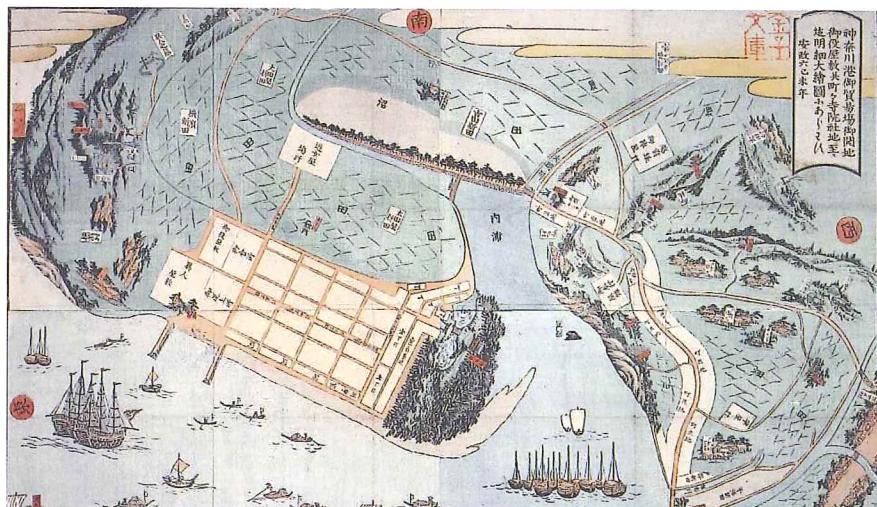
- 主な施設
- 沿川の史跡など
- 歴史的橋梁など
- 公園緑地など
- 主な商店街



# 大岡川の歴史

## ◎新田開発と運河による物流に使われた河川

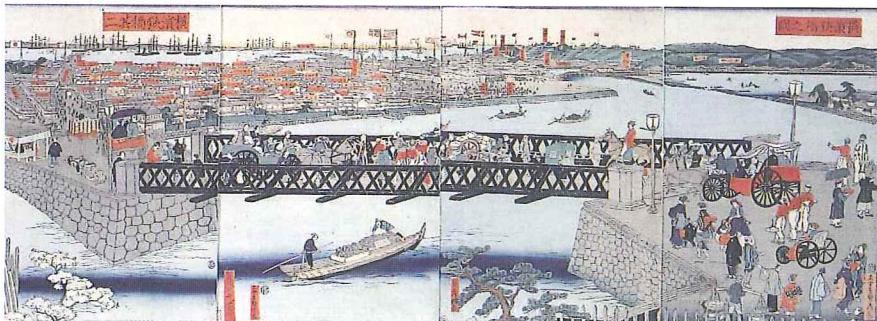
- ・大岡川・中村川に囲まれた区域は、江戸時代初めまで「洲乾（しゅうかん）の湊」と呼ばれた遠浅の入江でした。
- ・江戸の材木商の吉田勘兵衛らが、最初に伊勢佐木長者町駅付近まで新田を開発しました。その時に現在の中村川が生まれました。
- ・ペリー来航を受け、横浜は開港場となり、中村川は堀川の開削により延長され、関内地区は出島として外国人居留地となりました。
- ・明治に入り港が整備されると掘割川、吉田川、日の出川、新吉田川等の運河が次々に開削され、水上ネットワーク都市横浜がつくられました。
- ・戦後は、建築用材の運搬を主体として水運利用が盛んに行われましたが、戦後復興と共に輸送交通体系も陸運が主役となり、都心部では高度な土地利用が求められ、環境整備を目的とした公園や、地下鉄・高速道路を整備するため運河は埋めたてられその役割を終えました。



▲安政 6 年 (1859 年) 開港当初の様子。現在の元町を流れる堀川はありません。



▲文久元年 (1861 年) 境の様子。堀川や派大岡川 (現在の首都高速道路) がつくられました。



▲派大岡川に架かる吉田橋。明治 2 年に英国人技師ブライトンの設計により鉄橋がつくられました。

資料：神奈川県立歴史博物館所蔵

# 大岡川河川再生計画の全体構

大岡川の流れを生かし、河川再生計画の5つの目標を達成する全体構想は「施設や環境づくり」と、「大岡川の環境を維持保全

## 施設や環境づくり

水質浄化施設の整備や水生生物を保全します。



整備イメージ 生態系などの保全により、自然浄化機能を再生・補強して、川の水を美しく保つとともに水生生物を保全します。

右図のできるだけ多くの場所で展開します。

大岡川に関連する歴史資産を保全・活用します。



古い橋梁や護岸などの歴史資産や川沿いに点在する史跡などは、横浜を物語る大切な財産です。この財産を積極的に保全・活用することにより、魅力と個性ある川をつくります。

右図の 印の場所で展開します。

大岡川の景観整備を行ないます。



川沿いの景観を美しく整え、水面・花見・緑陰・紅葉・魚影など河川の風情を楽しみ憩う場をつくります。川の魅力を高め、商業の活性化を図ります。

右図の 印の場所で展開します。

親水施設・多目的桟橋・緊急時の荷揚場などを整備します。



子供が水と触れあいながら遊び学ぶ場所や、水上のレクリエーション活動の拠点をつくります。また、災害時の防災拠点としても利用できるように配慮した施設づくりを目指します。

右図の 印の場所で展開します。

水辺の遊歩道を整備します。



美しく魅力的に生まれ変わる大岡川により多くの人々に訪れてもらうために、水辺の遊歩道を整備します。利便性や安全性にも配慮した生活動線としても活用します。

右図の 印の場所で展開します。

## 大岡川の環境を維持保全するしくみづくり

- 大岡川の清掃美化活動や親水活動を行います。
- 大岡川の環境を考え、共有する場をつくります。
- 大岡川を舞台とした教育活動を行ないます。
- 沿川のまちづくりに関するガイドラインをつくります。
- 大岡川の水面や施設利用のルールをつくります。

（ふれあい）

南  
藤田公園

# 全体構想

達成するために、大岡川に対する「全体構想」を定めました。  
を維持保全するしくみづくり」の2つから構成されます。

大岡川の魅力スポット



大岡川の屋形船



北仲通地区（大岡川夢ロード）



高架下日ノ出スタジオ（桜桟橋付近）



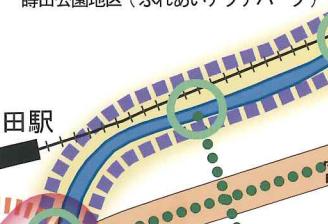
桜まつり



黄金橋付近の湧水



蔵田公園地区（ふれあいアクアパーク）



南太田駅

富士見川公園

市営地下鉄

吉野町駅

横浜橋商店街

日枝神社

（ふれあいアクアパーク）

高砂・睦町周辺地区



# 拠点整備の紹介

# 大岡川の自然

## ◎拠点整備地区の計画と状況

大岡川再生計画では、左図の（）で示すような、大きく8つの地区において拠点整備を行う構想が計画されています。これら拠点整備は、大岡川再生計画の目標を実現するために行われるものであり、水に憩うだけでなく、歴史や文化を守りつつ、沿川地域と一体となって大岡川の環境整備・管理を進めていくことをねらいとしています。拠点整備は、「北仲通地区（大岡川夢ロード）」「黄金町駅周辺地区（大岡川桜桟橋）」「蒔田公園地区（ふれあいアクアパーク）」「日ノ出町地区」で順次展開しています。

### 北仲通地区「大岡川夢ロード」（横浜市中区）

延長約240m、面積約2,800m<sup>2</sup>、工事期間 平成11～16年度

大岡川河口部の両岸に整備され、横浜を代表する観光地のみならぬ21地区を望むことができ、多くの人々が訪れる場所です。明治時代の旧護岸や荷揚場等を修復・保全するなど、歴史を感じることができる場所としても整備されています。

両岸に整備されたボードデッキを利用して水辺を散策することができ、ランドマークタワーや横浜港の眺望を楽しむことができます。



### 蒔田公園地区「ふれあいアクアパーク」（横浜市南区）

延長約50m、面積約1,400m<sup>2</sup>、工事期間 平成18～21年度

大岡川と中村川の分岐点に位置する蒔田公園の一角に整備された親水施設です。蒔田公園と一体化した開放的な空間で、ボードデッキから水辺に親しむのみでなく、災害時には防災拠点として様々な利用が可能な場所となっています。潮の干満により水深の変わる階段護岸では、季節に応じた水生生物等が観察でき、地域の子供たちの水辺環境学習の場にもなっています。地域のお祭りや文化的なイベント、カヌー体験教室など、地域コミュニティの創出にも活用されています。



### 黄金町駅周辺地区「大岡川桜桟橋」（横浜市中区）

延長約36m、面積約126m<sup>2</sup>、工事期間 平成17～18年度

地域住民からの積極的な計画立案により、整備された施設です。船着場としての機能をもたせ、カヌーやEボートが利用し易い場所となっています。また、大岡川の桜まつりでの利用を始め、大岡川を舞台とした様々な催しに活用されることにより、大岡川の環境を考え、共有することにも貢献しています。今後も施設を利用した防災活動や、教育活動、地域活性活動の促進が期待されます。



### 日ノ出町地区（横浜市中区）

延長約40m、面積約136m<sup>2</sup>、工事期間 平成25～26年度（予定）

京急日ノ出町駅から長者橋へむかう橋際付近の親水施設です。日ノ出町の駅前再開発との一体的な整備を計画することにより、地域の活性化やまちの賑わい創出にも効果が期待される親水施設です。浮桟橋を設置することにより、親水性の向上はもちろん、水上交通に利用しやすい施設となっています。また、防災拠点としての機能も備えており、災害時には中央広場への軽車両の進入が可能です。さらに、船舶等による物資運搬にも配慮した施設です。



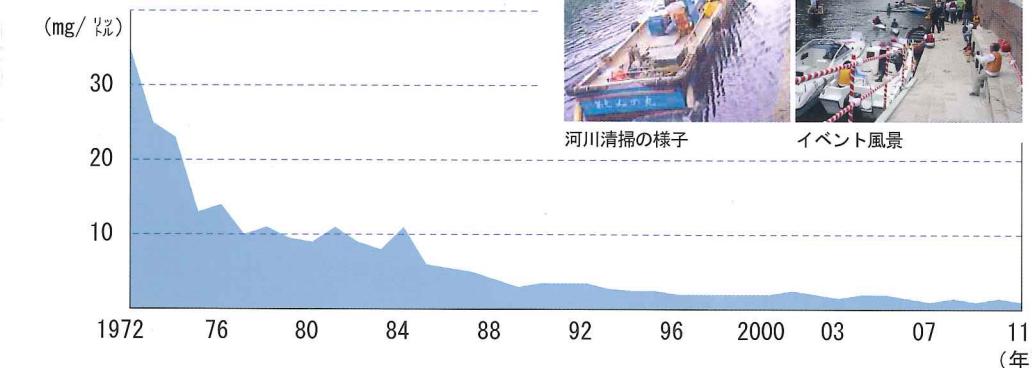
## ◎きれいになりつつある大岡川の水質

・大岡川では、昭和50年度（下水道普及率27%時）には13mg/LであったBODは、平成22年度（下水道普及率99.8%時）には2.1mg/Lに低下しています。

### BODの達成目標（横浜市）

8mg/L以下—川辺の散歩に適している  
5mg/L以下—釣りボート遊びに適している  
3mg/L以下—水遊びに適している

### 大岡川のBODの推移 観測地点：清水橋



河川清掃の様子 イベント風景

## ◎大岡川に生きる生物たち

・中流域～下流域に魚類の生息は少ないようですが、マハゼ等の周縁性魚（※）の生息は多く見られます。これらの理由として、感潮域での水質や底質等の生息環境が良くなってきたことのほか、河川水量の減少により海水が上流域まで遡上するようになってきたために川への移動、分散が容易になってきたことも考えられます。

### 大岡川の生物写真



・また、アブラハヤ等の「きれいな水域」で生息する魚も数匹確認されています。



また、ギンブナなどの魚やテナガエビ等の底生動物や、ワカメなども多数確認されています。



※周縁性魚：河川の下流から河口、海の沿岸域に生息する魚のこと。

資料：神奈川県水産総合研究所内水面試験場